Hack For Japan For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一

第25回 今年の夏もアツかった! ~石巻ハッカソン開催~ [その2]

Hack

■ Hack For Japan スタッフ 鎌田 篤慎 KAMATA Shigenori witter @4niruddha 佐伯 幸治 SAEKI koji

Twitter @widesilverz 高橋憲一 TAKAHASHI Kenichi

社会的課題をテクノロジで解決するためのコミュニティ Hack For Japan の活動をレポートする本連載。今回 は前回に引き続き、復興支援イベントとして宮城県石巻市で開催された石巻ハッカソンについて紹介します。

前号に引き続き、7月に行われた石巻ハッカソン のレポートをお届けします。石巻ハッカソンは前号 でお伝えしたIT Boot Camp部門のほかに、今回紹 介するチャレンジング部門とどや部門の3つの部門 に分かれて行われました。

事前のアイデアソン開催

チャレンジング部門とどや部門では、本番のハッ カソンの前にアイデアソンを行って、どのようなも のを開発するかのアイデア出しとチーム分けを事前 に行いました。当初はどや部門のみ、東京からの参 加者が多いこともあって東京でのアイデアソンを企 画していたのですが、それに触発される形でチャレ ンジング部門でも行おうということになりました。 この時点ですでに、百戦錬磨のどや部門の人たちが チャレンジング部門の人たちに良い影響を及ぼすと いう効果が出ています。

チャレンジング部門

この部門はアプリ開発を始めて間もない初級者か ら中級者を対象にしたものです。

参加者は昨年のIT Boot Campでアプリ開発に初 めて触れ、その後東北TECH道場注1の石巻道場で も研鑽を積んできた高校生や大学生が中心となって いることもあり、普段は東北TECH道場で講師を 務めている4人(出張純也さん、谷口泰大さん、そ してHack For Japan スタッフでもある小泉と高橋) がサポーターとして参加しました。

アイデアソンのときにできたチームだけでなく、 即席でプロのエンジニアと大学生で編成されたチー ムや地元石巻だけではなく岩手県立大学から参加し てくれたチームもありました。

主な開発プラットフォームはJavaでのAndroid アプリ開発でしたが、Corona SDKを使う人、iPhone アプリを開発する人もいました。また、端末ローカ ルで動くものだけではなく積極的にWeb APIを活 用したり、サーバ側とアプリ側の実装を分担すると いう本格的な開発を進めるチームもありました。

ノートパソコンだけではなく外付けのディスプレ イとキーボードを持ち込み、どや部門の人たちを あっと言わせるようなものを作るぞ!と意気込む参 加者もいました(写真1)。

どや部門

東京や遠くは大阪から腕に覚えのある皆さんに、 3日間で「どや!」言えるようなものを作ってもらう ことで石巻の若者を触発するべく参加していただき

◆写真1 チャレンジング部門の部屋



注1 https://sites.google.com/site/tohokudojo/

第25回 今年の夏もアツかった!~石巻ハッカソン開催~[その2]

ました(**写真2**)。エンジニアだけでなくデザイナーの方にも参加いただいており、デザイナーがいると最終成果の出来が違ってくるということを身をもって示してもらえました。

また、凄腕のエンジニアにはガジェット好きも多いためか、Leap Motionや某眼鏡型デバイスなどの普段なかなかお目にかかれない最新ガジェットを持ち込んでくれた参加者もおり、一時はIT Boot Camp部門やチャレンジング部門の参加者が興味津々でどや部門部屋に殺到するという場面もありました。

ハッカソン以外の楽しみも

今回はひたすら開発に打ち込むこと以外の楽しみもありました。開催中に運営サイドの突然の思いつきからカレーを作るプロジェクトが立ち上がり、急遽"カレー部門"を結成。手作りカレーが振る舞われました(写真3)。ほかにも、石巻を訪れた方や在住の方が集う「石巻復興バー」で飲みながら親交を深めたり、石巻を一望できる観光スポットの日和山公園まで早朝にランニングをするなど、いろいろな形で

◆ 写真2 どや部門の部屋。ヘッドホンをして集中する場面も



◆写真4 最終日の朝の様子

石巻訪問を楽しみました。

いよいよ成果発表

最終日に行われた成果発表の結果です(写真4)。



IT Boot Camp部門

IT Boot Camp部門では「ビリヤード」、「エアホッケー」、「太鼓をたたくと音が出る(Corona Wikiにも演習として出てくるものを発展させたアプリ)」、「画面上に並んだ数字をボールではじき飛ばす」、「シルエットの木に触ると鳥が飛んだり、時間が経つとイベントが起こる時計アプリ」など、初めてプログラミングを体験した方がほとんどにもかかわらず、多様なアイデアのアプリが発表されました。

また Kwik^{注2}を使ったチームでは、「オス・メスを 仕分けるひよこ仕分けアプリ」、「ピンボール」、「石 巻の名産をモチーフにしたパズルゲーム」、「納豆を ひたすら混ぜて、回数が増えていくとイベントが発 生するアプリ」、「ボーリングゲーム」など、こちら もユニークな発想のアプリが発表されました。

このIT Boot Camp部門で優秀賞として選ばれた

◆ 写真3 お昼のカレー支給の様子も





注2 Corona SDK用のPhotoshopプラグイン。インタラクティブな電子ブックなどを作るのに適している。

Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

のは、高校1年生が制作した「画面上を逃げる顔文字をタップして捕まえる鬼ごっこゲームアプリ」、高校3年生が制作した「先生のキャラクターを海の底から救出するゲームアプリ」、別の高校3年生が制作した「先生のキャラクターをタップすると人形のように触ることができるアプリ」です。これらの作品は「アイデアが良かった」、「デザイン的におもしろい」、「工夫しようという試みがあった」、「発表を見ている方たちが楽しんでいた」といった点で高い評価を得ていました。

高校生の参加者が多かったこの部門では学校の先生をネタにしたアプリがいくつか見られ、参加者の 笑いを誘っていました。



チャレンジング部門

チャレンジング部門では「未来へのキオクAPIを使い、どこにいてもご当地キャラが出入りし、タップすると現在の宮城の情報が得られるARアプリ」、「被災地でがんばるママ向けの子育て・食育系アプリ」、「わんこそばをモチーフにしたゲームアプリ」、「石巻のロゴをパズルにした落ちものゲーム」、「Google Play ServicesのActivity Recognition APIを利用して、徒歩、自転車に乗っている、クルマに乗っているなどユーザの行動を表示するアプリ」などが発表されました。

チャレンジング部門の優秀賞は「学スケ」と名付けられた学生用時間割スケジューラアプリです。このアプリは大学1年生とプロのエンジニアのチーム(写真5)により制作されたもので、"自分の欲しいアプリを作る"ことを意識したアイデアから生まれました。"石巻工業高校の生徒に捧ぐ"とされたこのアプリは、「普通科の学校用時間割アプリでは機械製図など特殊な教科が入力できず、自分の時間割を作れない」という課題を解消することを目指しました。時間割をみんなで共有でき、さらには宿題を忘れないようにするアラーム機能も付いています。自分の身近なところからの発想である点や完成度が評価さ

◆ 写真 5 チャレンジング部門の優秀賞受賞チーム



れました。

作者の大学1年生は昨年の石巻ハッカソンでIT Boot Campに参加した学生(当時は石巻工業高校3年生)の一人で、Boot Campで触れたCorona SDK をマスターし、さらにJavaでのAndroidアプリ開発を学んでいるとのこと。今後が楽しみです。



どや部門

どや部門では「Corona SDKのテストが行えるアプリ『Corona SDK test runner』」、「きれいにデザインされた背景色が選べるアラーム時計」、「防災に関するツイートを発信するアカウント、特務機関**ルフNERVの情報をまとめた『NERVまとめ』サイト」、「困ったこととその解決策を募る他力本願コラボレーションツール『ポテンシャライザー』」、「国会議員の所属政党履歴をgitで管理」、「ジオキャッシング²³において某眼鏡型デバイスを使って宝の場所が通知されるアプリ」などが発表されました。さすがにプロの開発者たちが集まっている部門だけあって、アプリやサービスの目的が明確かつデモのレベルも高く、参加者はとてもいい刺激を受けたようでした。

印象的だったのは「NERVまとめサイト」を作った石森大貴氏のプレゼンでした。石森氏は石巻市出身で実家が被災されたとのことで、「石巻の中高生や大学生にプラスになれば」と今回参加したとのこと。石森氏は「自分で何かをやると世の中が変わるよ」ということを、震災時の停電を防ぐ目的で行われた特務機関NERVのヤシマ作戦²⁴でのエピソー

注3 GPS機能を備えた機器を使って現実世界で行うアウトドア宝探しゲーム。

注4 2011年3月11日に発生した東日本大震災の際、節電を呼びかけるためにTwitterで広まった非公式キャンペーンのこと。アニメ『新世紀 エヴァンゲリオン』の作中に登場する同作戦名のエピソードになぞらえたもの。

ドなども交えて話してくださいました。

どや部門における優秀賞は「ボクスケ |注5と名付 けられたアプリです。3Dプリンタで出力できる3D モデルを小学生でも作れることを目指したアプリと いう、とても難易度の高いアプリをハッカソンで形 にしてしまう圧倒的なレベルの高さで文句なしの優 秀賞でした。このアプリの素晴らしい点は、3D CADで使われるz軸の難しさを解消した点にあり ます。z軸を2Dの色の濃淡で表現することにより、 直感的に3Dモデルが作れるというものです。デモ においても実際にモデルを作るところから、3Dプリ ンタで出力できるCADデータに書き出すまでが見 られ、まさに"どや!"という完成度ですべての参加 者に驚きを与えていました。審査員からの「今すぐ 投資を受けられるくらいのレベル」というコメント もその完成度の高さを物語っていました。

最後に

すべての参加者の成果発表が終わった後、この ハッカソンの主催者であるイトナブ石巻^{注6}代表の 古山氏の総括が行われました。

「昨年の第1回目と比べて思ったのはIT Boot Campのレベルの高さ。とてもクオリティが高かっ たと思います。また、どや部門は本当にどやでし た。同じ時間を使って開発して、これだけスゴイも のを作っている。上には上がいるのを実感できたの ではないでしょうか。また、チャレンジング部門で は昨年のIT Boot Campで初めてアプリ開発に触 れ、その後も継続して学んでいるメンバーが優勝で きたのがうれしかったです。これからももっと開発 者を目指す人の輪が広がっていってほしいと思いま

この1年でここまでできるようになったというこ とに、古山氏は熱くこみ上げてくるものがあったよ うです。同じくこの1年、Androidアプリ開発の講 師として彼らをサポートして来た筆者(高橋)にとっ ても感慨深いものがありました。

こうして3日間にわたる第2回石巻ハッカソンが 幕を閉じました。

イトナブ石巻には「震災から10年後の2021年ま でに石巻で1.000人のIT技術者を育成する | という 目標があります。今回のイベント後のアンケートで は、参加者の満足度、次回への参加意志ともに高 く、そのきっかけのいくつかを作るお手伝いができ たのではないかと思っています。

実は石巻ハッカソンの後、東京で"世界で一番面 白い街「東北・石巻 | に学ぶコミュニティデザイン 「な ぜ震災後、石巻には『面白い人』が集まるのか? | "と いうトークイベントが開催され、イトナブの古山氏 に加え、Hack For Japanスタッフの及川、高橋も ディスカッションに参加しました。そこで来年の石 巻ハッカソンのスケジュール (2014年7月25~27 日) が発表されるなど、次への動きがすでに始まっ ています。

この記事を読んで興味がわいた方は、ぜひ来年の 石巻ハッカソンへ参加してみてください。楽しく充 実したひとときを過ごせると思いますし、石巻の元 気のある若者と触れ合い、ともに開発することは自 分自身への新たな刺激にもなると思います。

それでは来年の夏、石巻で皆様をお待ちしており ます! **SD**

会場の石巻工業高校の Column 震災発生時の状況

2011年3月11日の震災発生時、今回の会場となっ た石巻工業高校の付近にも津波は押し寄せてグランド や校舎の中にも浸水し、残っていた生徒や職員だけで なく、避難して来た近隣の方々が孤立した状態が3日 間続いていたとのことです。わずかな食べ物と水を分 け合うもののすぐに底をつき、周辺道路の水がなかな か引かなかったために外から物資を届けることも難し かったという状況だったそうです。

今では当時のことが想像できないくらい通常どおり きれいな校舎になっていますが、こうして今回のよう なイベントを多数の参加者の皆さんと笑顔のもとで開 催できたことは、復興はもとより、前よりも良くする 未来へ向けた取り組みの1つなのだと思います。

注5 https://www.rinkak.com/voxke(その後、実際にサービスが立ち上げられています)

注6 http://itnav.ip/